



佐渡市【新潟県】 歴史文化基本構想

■ 策定年月：平成23年3月 ■ 人口：55,859人 ■ 面積：855km²
■ 担当課：佐渡市世界遺産推進課（平成30年3月現在）



日本海に浮かぶ佐渡島は、金銀山に関連する遺跡や寺社等の建造物、伝統芸能など多種多様な歴史文化資源が島内全域にわたって分布している。広大な面積を有する佐渡は、変化に富む自然豊かな島の中で独自の文化が育まれてきた。市町村合併により平成16年に一島一市となった佐渡市では、島全体の歴史文化に関するランドデザインを構築するため、基本構想を策定した。

5 歴史文化を表す つのキーワード

豊かな自然・生態系、文化の伝播、日本の縮図、
交流・交易、金銀山による繁栄

課題

- ・ 佐渡独自の保護の仕組みづくり
- ・ 住民との連携による保存管理体制づくり
- ・ 効果を実感できる事業推進づくり

保存活用方針

- ・ 歴史文化を次世代へ継承する
- ・ 地域が主体となり、守り育てる
- ・ 歴史文化資源を活かし交流活動を成熟させる

保存活用のための取り組み

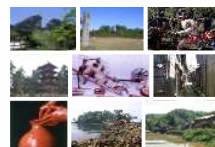
歴史文化資源の総合目録づくり

市内に散在している膨大な歴史文化資源は、佐渡の歴史と文化の特色を伝えるうえで貴重である。これらの消滅や散逸を防ぐリストの作成・整理作業は、基礎的な作業として不可欠であり、継続的に取り組む必要がある。



文化財指定等の推進

市内の指定文化財等の総数は、現在400件を超える。しかしながら、歴史的・文化的価値を有する未指定の文化財は、市内各所にまだ数多く存在していることから、今後も文化財の指定等を進め、文化財の保護を図ることが必要である。



人材の育成

市民自らが歴史文化を学び、郷土を愛する心を養うためには、郷土の魅力を発信する人材の育成や情報の発信等を行い、歴史文化の掘り起こしをさらに推進する必要がある。児童生徒による「佐渡学」の実践や来訪者に対する案内ガイド育成等の充実が必要である。



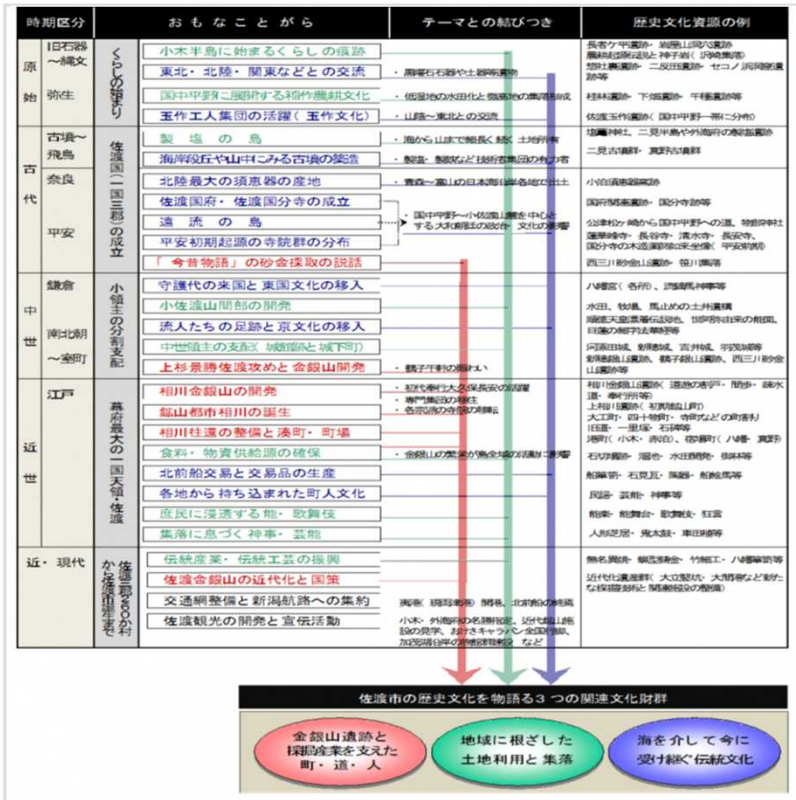
現地ガイドンスの充実

文化財に関する情報を市民や来訪者に円滑に伝えるためには、現地における適切な仕組みの充実が求められる。拠点となる博物館・資料館以外にも知的好奇心を誘うような現地案内看板の設置やインフォメーション機能の強化が必要である。





関連文化財群



魅力ある地域の歴史や文化を育成するためには、文化財が生み出された背景を理解し、多種多様な文化財同士の関連性を見出す取り組みが重要となる。これまで行われてきた調査研究の成果や市民が守り伝えてきた数々の保護活動をもとに、文化財相互の関連性によって生み出された、佐渡固有の歴史文化を物語る一定のまとまりを関連文化財群として設定した。

ストーリー

- ① 金銀山遺跡と採掘産業を支えた町・道・人
- ② 地域に根ざした土地利用と集落
- ③ 海を介して今に受け継ぐ伝統文化



策定後の成果 (見込まれる効果)

① 調査・研究活動の推進

新潟県と佐渡市では、世界文化遺産登録を目指しているところ、平成22年に「金を中心とする佐渡鉱山の遺産群」が世界遺産の国内暫定一覧表に記載された。約400年にわたる遺跡や鉱山関連施設が相川地区を中心に今も残されており、近年は史跡や建造物指定、重要文化的景観の選定などによって、文化財の保存と活用を図っている。



② 市民活動の拡充

世界文化遺産の登録運動を中心に市民活動が展開されており、市民活動として、金の道ウォークなど各種イベントの開催やガイド養成など、地域の盛り上げや受け入れ態勢の拡充に向けて活動している。これまでの継続的な取り組みにより、活動を応援する団体・個人は、年々増加しており、官民が一体となった活動が展開されている。



③ 歴史的風致維持向上計画の策定

市民の歴史文化に関する関心の高まりのもと、地域の歴史的風致の維持向上を図るため、「地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律(通称：歴史まちづくり法)」に基づき、佐渡市歴史的風致維持向上計画の策定に取り組んでいる。今後は、策定のための協議会を立ち上げ、歴史を活かしたまちづくりを展開していく予定である。

